



埼玉県マスコット
「コバトン」

平成27年産

水稻の作柄概況



埼玉県農業技術研究センター

1 気象概況

(1) 気温

平均気温は、5月は月平均で平年差 3.0℃程度とかなり高く、7月上旬を除き8月上旬までは平年並から高く推移した。特に7月中旬～8月上旬も平年より2～3℃程度高かった。8月下旬～9月上旬は低く、特に8月第6半旬は平年より4℃以上低かった。9月中旬以降は平年並～高く推移した。

(2) 降水量

5月下旬までは少なかった。6月上旬～7月中旬は平年並～多く推移した。7月下旬～8月上旬は少なかった。8月第6半旬～9月上旬は停滞した前線の影響で曇雨天が続き多雨となった。以降は平年並～少なく推移した。

(3) 日照時間

4月下旬～6月下旬までは、平年並～多く推移した。特に5月は月合計で平年比 140%とかなり多かった。7月上旬は平年比 22%とかなり少なかった。7月中旬～8月上旬は多く推移したが、8月下旬～9月上旬はかなり少なかった。9月中旬以降は平年並～多く推移した。

(4) 熊谷地方気象台の観測記録

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平均気温 ℃	本年	14.2	21.2	22.4	26.7	26.7	22.4	17.8
	平年	13.6	18.2	21.7	25.3	26.8	22.8	17.0
	平年差	0.6	3.0	0.7	1.4	-0.1	-0.4	0.8
		平年並	かなり高い	高い	高い	平年並	平年並	高い
降水量 mm	本年	81.5	37.0	240.5	246.5	177.5	277.5	22.0
	平年	92.9	111.8	145.4	161.6	192.6	208.3	146.1
	平年比	88%	33%	165%	153%	92%	133%	15%
		平年並	かなり少ない	かなり多い	多い	平年並	多い	かなり少ない
日照時間 h	本年	162.6	254.8	152.5	179.9	150.1	120.9	200.8
	平年	190.2	182.0	125.5	136.9	166.5	120.8	148.2
	平年比	85%	140%	122%	131%	90%	100%	135%
		少ない	かなり多い	多い	多い	平年並	平年並	かなり多い

*熊谷地方気象台「埼玉県の気象・地震概況」より

(5) 特徴的な気象と水稲への影響

特徴的な気象	水稲への影響
<ul style="list-style-type: none"> 4月下旬～5月の高温、多照 	<ul style="list-style-type: none"> 早期、早植栽培の初期生育の促進
<ul style="list-style-type: none"> 7月上旬の低温、寡照 	<ul style="list-style-type: none"> 普通栽培の初期生育の停滞
<ul style="list-style-type: none"> 7月中旬～8月上旬の高温 	<ul style="list-style-type: none"> 生育の促進
	<ul style="list-style-type: none"> 早期、早植栽培の出穂の前進 早期栽培の玄米品質低下
<ul style="list-style-type: none"> 8月第6半旬～9月上旬の降雨 	<ul style="list-style-type: none"> 早期栽培の収穫作業の遅れ
<ul style="list-style-type: none"> 8月下旬～9月上旬の低温、寡照 	<ul style="list-style-type: none"> 早植、普通栽培の登熟停滞

2 水稲生育相調査から見た生育・作柄の特徴

(1) 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

苗は充実度の高い良苗が得られた。

活着は良好であった。

5月中旬に強風が数回吹いたことにより葉身の損傷がみられたものの、5月が高温、多照で経過したため生育は旺盛であった。7月上旬の低温、寡照により一時、生育は停滞したが、全般には高温、多照であったため、生育量は平年を上回り推移した。また、中干しが良好に実施できたため弱小茎の発生が抑えられ、中干し以降茎数はやや少なく推移したが、有効茎歩合が高く、穂数は平年より多く確保された。

高温により葉位の進展が早まり、出穂期は平年より5日早かった。

登熟は、登熟前半の高温多照により進んでいたが、8月下旬の曇雨天により遅延し、成熟期は平年並となった。

収量は、穂数が多く、1穂籾数の減少も見られなかったことから㎡当たり籾数が多くなり、千粒重が軽くなったものの、平年比120の多収であった。

外観品質は、過剰な籾数や登熟後半の寡照により粒張りが不足したことや、登熟前半の高温により白未熟粒がやや多く発生したことから平年より劣った。

(2) 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

苗は充実度の高い良苗が得られた。

高温により移植数日後から藻類の発生が多く見られた。活着は概ね良好であった。

生育期間を通して草丈、茎数とも概ね平年並に推移し、穂数は平年並に確保された。

早期栽培同様、高温により葉位の進展が早まり、出穂期は平年より3日早かった。

登熟は8月下旬～9月上旬の曇雨天の影響により遅延し、特に2次枝梗に着粒する籾の登熟が極端に停滞し、成熟期は平年より8日遅れた。

収量は、1穂籾数が多いことから総籾数がやや多く、千粒重や登熟歩合は概ね平年並で、平年比108の多収であった。

外観品質は、登熟初期の寡照により乳白粒がやや多かったが、基部未熟粒の発生は少なく、概ね平年並であった。

(3) 普通栽培（6月25日植 キヌヒカリ）

苗の充実度はやや低かったが、活着は良好であった。

7月上旬の低温、寡照により初期生育は遅れたが、その後の高温、多照により回復し、草丈、茎数とも概ね平年並に推移した。有効茎歩合がやや高く、穂数はやや多く確保された。

出穂期は平年並であった。

登熟は8月下旬～9月上旬の曇雨天の影響により遅延した。9月中旬以降は天候が回復したものの、2次枝梗に着粒する粳の登熟が極端に停滞し、成熟期は平年より9日遅れた。

収量は、総粳数がやや多く、出穂前が高温、多照であったことや9月中旬以降の天候の回復により粒張りが良好で千粒重が重く、平年比111の多収であった。

外観品質は、登熟初期の寡照により乳白粒がやや多く発生し、登熟ムラにより青未熟粒もやや多く、やや劣った。

3 県内全般の生育・作柄の特徴

(1) 早期、早植栽培

苗の生育は4月中旬からの高温のためやや徒長気味で、一部に高温障害が見られた。移植作業は概ね平年並みに行われ、活着は良好で初期生育は旺盛であった。

7月上旬を除く8月上旬までの高温、多照により早期栽培の出穂は、平年より7日程度早く、5月中旬田植では出穂が3～5日程度早まった。

登熟もこの気象により進んでいたが、移植日によって8月下旬～9月上旬の曇雨天による影響を受けた程度によって成熟期が遅れる傾向であった。

8月早期栽培の収穫は「あきたこまち」等、極早いもので平年より6日程度早く始まった。しかし、以降のものは、8月下旬からの雨天により収穫作業が遅れ刈遅れも見受けられた。

収量は穂数がやや多かったことから総粳数が多く8月下旬からの日照不足で、千粒重が平年を下回ったことから平年並み～やや不良であった。

品質は早期栽培では高温障害と思われる白未熟粒が多く、また、早植栽培では総粳数が多く、8月下旬～9月上旬の日照不足であったことから整粒歩合が低い傾向にあり劣った。

(2) 普通栽培

移植作業は、麦類の収穫が早まったことから平年よりやや早めに進んだ。7月上旬の低温、寡照により初期生育は遅れたが、その後の高温、多照により回復し草丈・茎数とも概ね平年並に追いついた。

出穂期は平年並みであったが、8月下旬～9月上旬の曇雨天により出穂始めから穂揃期までの期間が平年より長く生育のバラつきが大きかった。

登熟もこの曇雨天の影響で遅延し、収穫作業は5日～7日程度遅れた。また、収穫適期の判断が難しかった。

収量は、総粳数がやや多かったが8月下旬～9月上旬の曇雨天の影響により粒の肥大・充実が抑制されたものが多く平年並みからやや不良であった。

品質は、登熟初期の寡照により乳白粒がやや多く発生し、登熟ムラにより青未熟粒もやや多く劣った。

関東農政局発表の10月15日現在の埼玉県の作況指数は東部97、西部97で県全体では97であった。また、10月末日現在の埼玉県の水稻うるち米の検査結果は1等59.7%、2等34.9%、3等5.0%、規格外0.4%であった。

4 具体的データ

(1) 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)

表1 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)		
		基肥	移植後2週間	出穂前18日
5月1日	稚苗	3	2	2.5

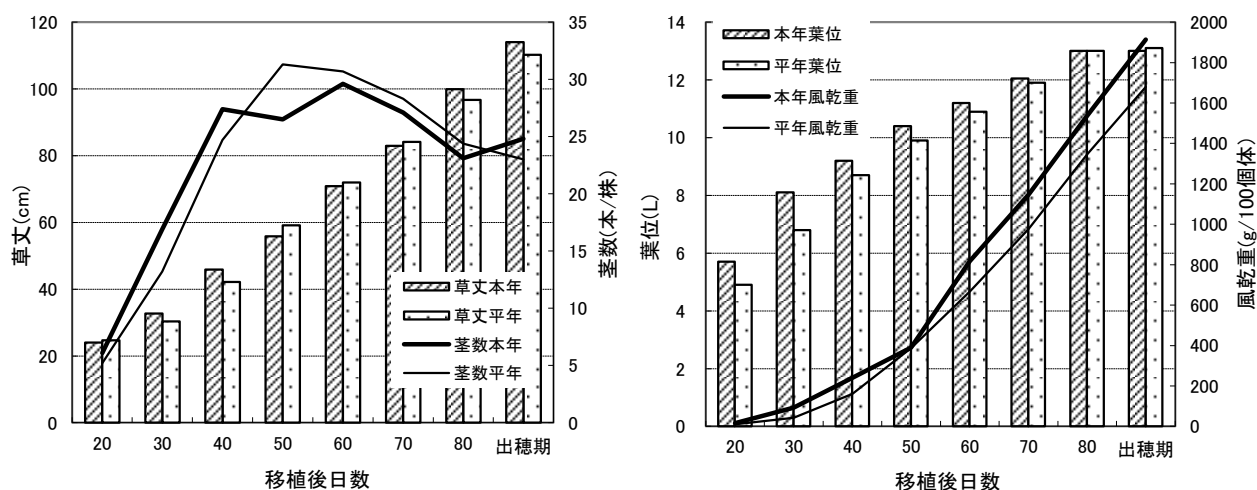


図1 生育経過

注) 平年値は平成11年~26年(22年は除く)の平均。以下同様。

表2 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/20	7/23	-3	7/22	7/27	-5	7/25	7/30	-5	9/4	9/4	0

表3 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
91.3	92.4	99	20.7	20.1	103	519	439	118	1.0	1.6	-0.6

注) 倒伏程度は0~5の6段階評価

表4 収量および収量構成要素

	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	612	9.5	18.3	503	92.5	46.5	70.3
平年	512	13.6	20.5	414	91.4	37.7	68.2
平年比(差)	120	-4.1	89	121	101	123	2.1

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表5 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	36.6	0.5	10.4	10.3	2.6	2.3	28.3	9.0
平年(H20~26)	52.7	0.8	6.9	6.5	1.5	3.0	24.7	3.9
平年差	-16.1	-0.3	3.5	3.8	1.1	-0.7	3.6	5.1

注1. 外観品質はササ穀粒判別器による測定(粒数比)

(2) 早植栽培 (5月20日植 彩のかがやき)

表6 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)	
		基肥	出穂前22日
5月20日	稚苗	5	3

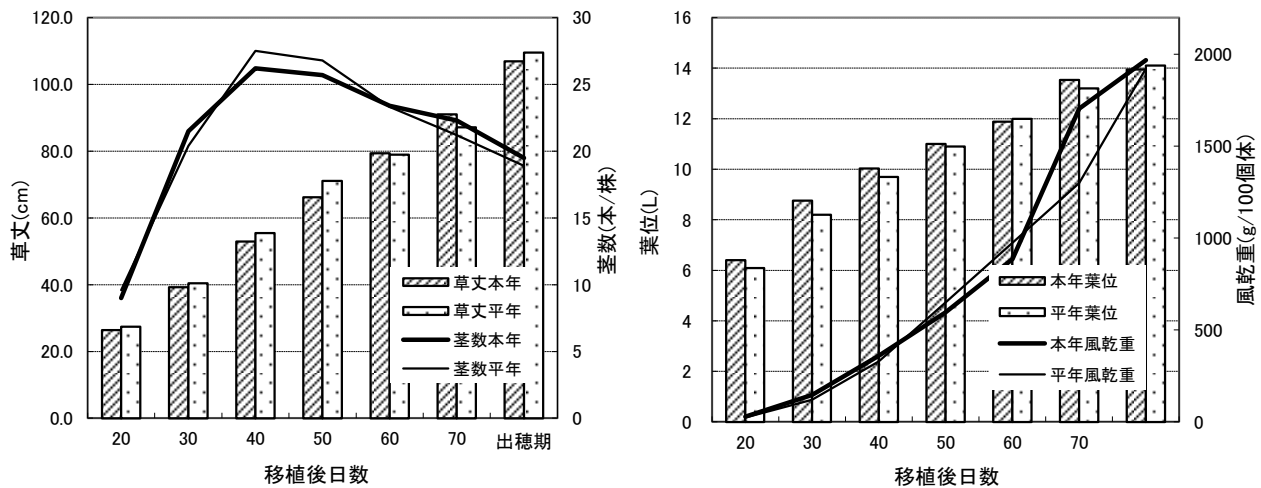


図2 生育経過

注) 平年値は平成12年~26年の平均。以下同様。

表7 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/7	8/10	-3	8/10	8/13	-3	8/12	8/16	-4	10/5	9/27	8

表8 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
80.3	80.3	100	22.4	20.9	107	371	377	98	0	0.1	-0.1

注) 倒伏程度は0～5の6段階評価

表9 収量および収量構成要素

	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	578	8.0	22.6	354	90.8	32.2	79.1
平年	533	8.1	21.7	364	83.6	30.3	81.5
平年比(差)	108	-0.1	104	97	109	106	-2.4

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表10 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	62.5	0.0	6.0	5.8	1.4	2.3	19.5	2.5
平年1	58.4	0.2	4.6	13.0	2.9	3.2	13.3	4.4
平年2	71.0	0.1	2.3	7.0	0.9	3.5	12.3	2.9
平年1差	4.1	-0.2	1.4	-7.2	-1.5	-0.9	6.2	-1.9
平年2差	-8.5	-0.1	3.7	-1.2	0.5	-1.2	7.2	-0.4

注1. 平年1はH19～H26の平均、平年2は平年1よりH22とH24を除いたもの

注2. 外観品質はササ穀粒判別器による測定(粒数比)

(3) 普通栽培(6月25日植 キヌヒカリ)

表11 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)	
		基肥	出穂前20日
6月25日	中苗	5	3

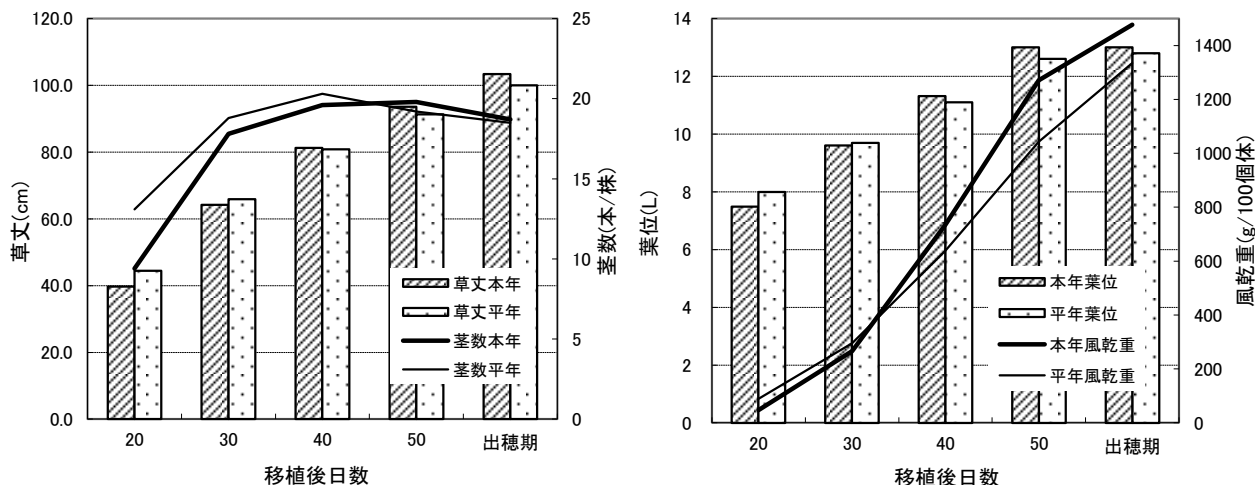


図3 生育経過

注) 平年値は平成10年～26年の平均。以下同様。

表12 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/17	8/16	1	8/20	8/20	0	8/22	8/22	0	10/12	10/3	9

表13 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
92.9	84.6	110	17.5	17.8	98	375	361	104	0	0.7	-0.7

注) 倒伏程度は0～5の6段階評価

表14 収量および収量構成要素

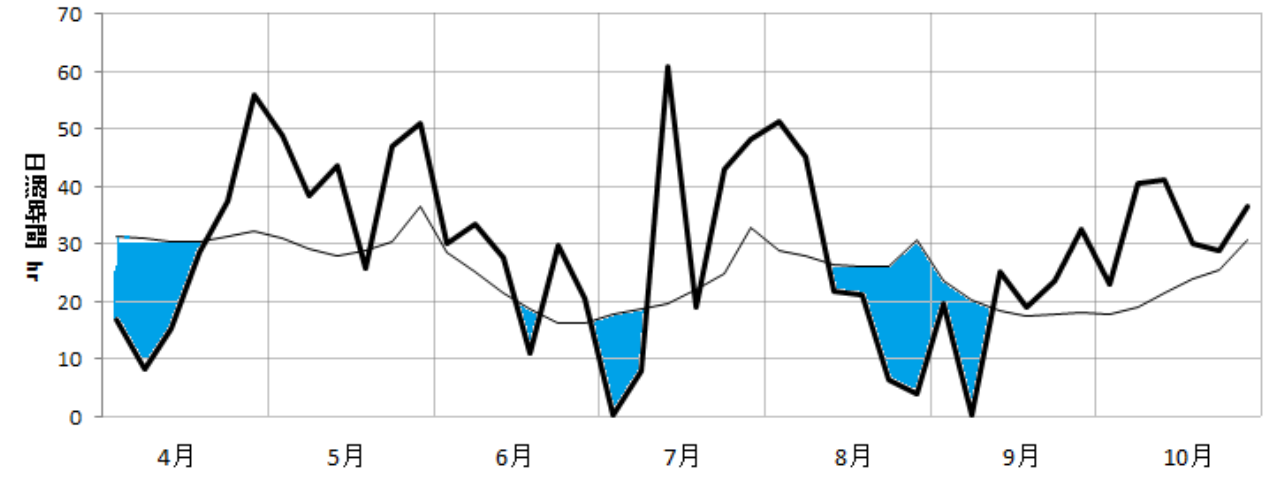
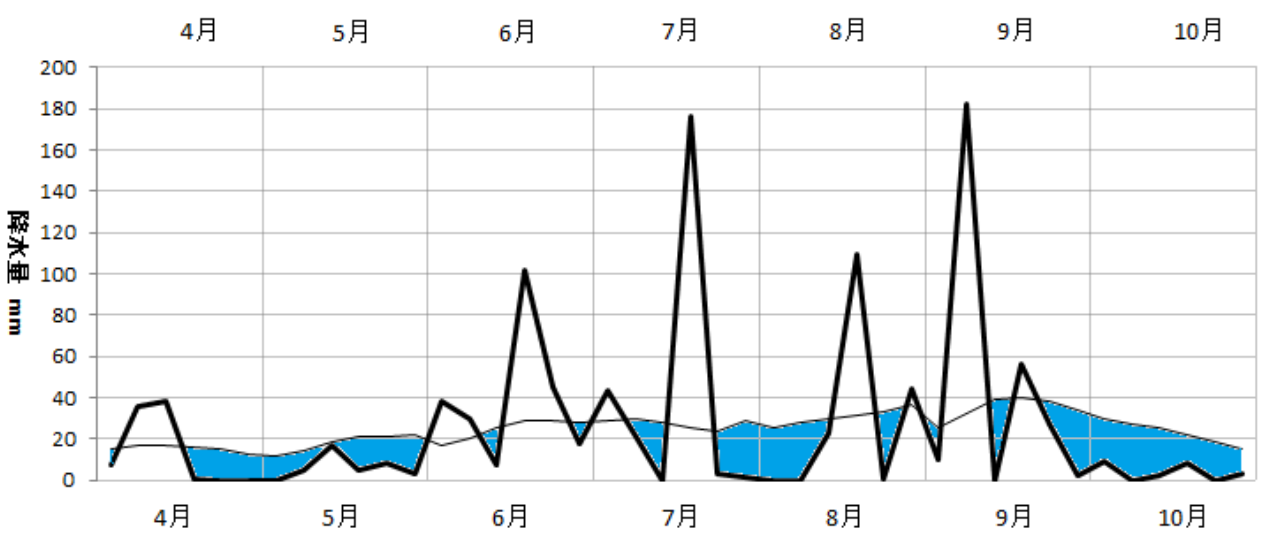
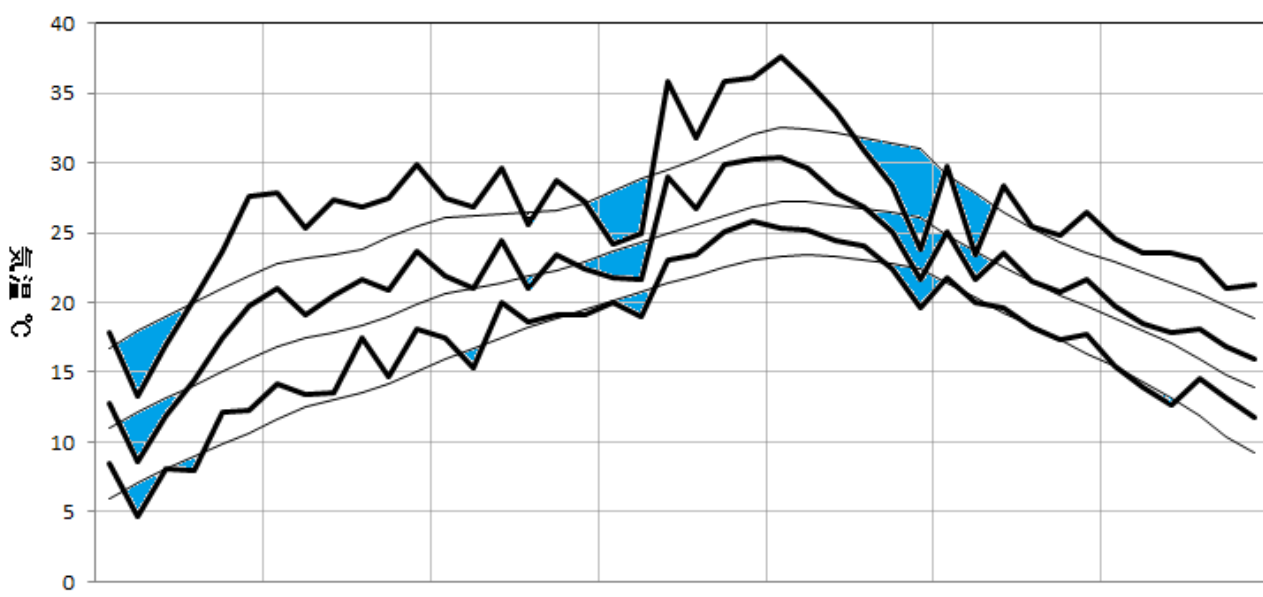
	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	527	8.9	23.0	361	92.7	33.5	65.3
平年	475	12.0	21.4	341	95.1	32.1	70.3
平年比	111	-3.1	107	106	97	104	-5.0

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表15 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	60.5	0.7	9.7	1.0	2.2	10.3	12.0	3.6
平年(H19～26)	63.1	0.6	3.7	2.8	1.6	7.4	17.7	3.1
平年差	-2.6	0.1	6.0	-1.9	0.5	2.9	-5.7	0.5

注1. 外観品質はサテ穀粒判別器による測定(粒数比)



平成 27 年夏作期間気象図
 (熊谷气象台日別測定値から作成)